

気候情報

2006年8月の日本の天候

気温高い(全国)、降水量少ない(西日本を除く)
日照多い(日本海側)

8月の天気概況

上旬後半には、台風第7号が本州南岸を東進し、同じ頃、台風第8号と第9号が沖縄地方の南海上を西進した。中旬後半には台風第10号は九州に上陸し、九州地方や四国地方の一部で大雨となった。

平年に比べ前線は日本付近に南下することが少なく、台風接近時を除いて、太平洋高気圧に覆われ晴れる日が多かったため、全国的に気温が高く、西日本の気温は地域平均の統計を取り始めた1946年以降、1994年、1995年に次ぎ1998年とならぶ第3位タイの高い記録となった。降水量は全般に少なかったが、台風が上陸した九州や、活発な前線の影響を受けた北海道の一部では多雨となった。日照時間は、前線、台風や湿った気流の影響が小さかった西・東日本日本海側を中心に多かった。

台風の発生数は7個(平年5.5個)で、5個(平年3.4個)接近し、そのうち1個(平年0.9個)上陸した。

上旬：日本付近は高気圧に覆われ晴れて暑い日が続いたが、後半は台風第7号が本州南岸を東進したため、静岡県から関東南部では大雨となった。また、台風第8号と第9号が沖縄地方の南海上を西進した。東北地方は2日ごろに梅雨明けとなった。旬平均気温は、北・東日本で平年並で、西日本と南西諸島で高かった。旬降水量は、東日本太平洋側で多く、南西諸島で平年並の他は少なかった。旬間日照時間は、南西諸島で平年並の他は多かった。

中旬：前半は高気圧に覆われて晴れた所が多かったが、後半は台風第10号が日本の南海上を北上したため、太平洋側では暖かく湿った気流の影響で曇りや雨となり、18日に宮崎県に上陸したため、九州地方や四国の一部で大雨となった。また、前線の活動が活発となり、北海道でも大雨となった。旬平均気温は、全国で高かった。旬降水量は、北日本と東日本で平年並で、西日本で多く、南西諸島で少なかった。旬間日照時間は、北日本太平洋側と西日本太平洋側で少なく、東日本日本海側で多い他は、平年並だった。

下旬：前半は、北日本を中心に低気圧や前線の影響で曇りや雨となり、西日本を中心に高気圧に覆われ晴れる日が多かった。後半は、東日本と西日本でも前線の影響を受けるようになり、月末には前線の活動が活

発となった九州で大雨となった。旬平均気温は、全国で高かった。旬降水量は、北日本日本海側と西日本で平年並で、北日本太平洋側、東日本と南西諸島で少なかった。旬間日照時間は、北日本日本海側、東・西日本太平洋側と南西諸島で平年並で、北日本太平洋側と東・西日本日本海側で多かった。

8月の気候統計

月平均気温：全国的に高く、西日本、南西諸島ではかなり高かった。全国的に平年を1℃以上上回ったところが多く、北海道では平年を2℃以上上回った。

月降水量：東北地方、および北陸から中国地方にかけては少なく、南西諸島ではかなり少なかった。東日本太平洋側など、そのほかの地方は平年並だった。

月間日照時間：東日本日本海側と西日本日本海側で多く、広い範囲で平年の120%以上となった。そのほかの地方では平年並だった。

(気象庁観測部統計室)

8月の記録(1位更新のみ)

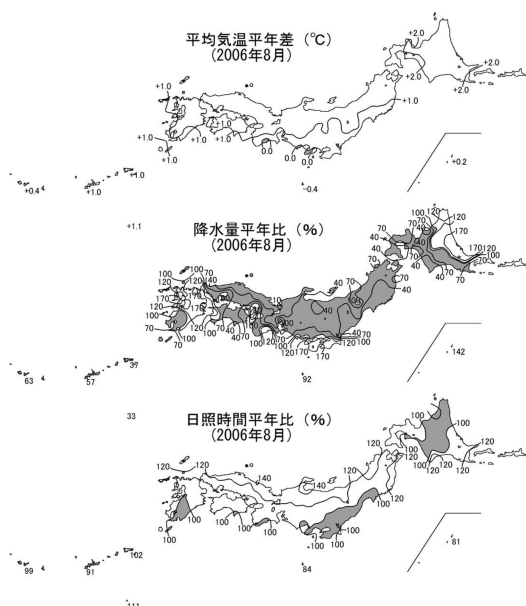
・月平均気温高い方から(℃)

神戸 29.4 下関 29.0 阿蘇山 21.7
屋久島 28.3

・月降水量少ない方から(mm)

白河 30.0

2006年8月の平年差(比)図



注) 陰影の部分は、平年より低い(少ない)地域を示す。